

# 2月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

30年2月のDI値は8指標中、「景況」と「売上高」が小幅ながら上昇。残り6指標については、下落となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

繊維製品製造業や板金工事業等では、仕事の受注が順調。また製材業では、公共事業を中心とした需要があり、売上高が増加している様子が窺える。更に貨物運送業においては、軽油価格が値下がりし、収益状況が好転したとの明るい報告も寄せられた。

その一方で、2月も寒波や積雪の影響で売上の伸び悩みに嘆く声が寄せられた。また、依然として続く労働力不足をはじめ、原材料高も懸念材料となっている。

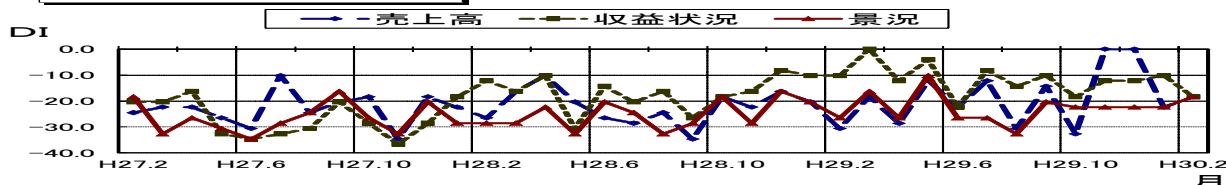
景気は回復を続けていると言われているものの、日経平均株価は上げ幅が500円超えから一転して小幅反発する等、依然として不安定な値動きが続いている。更に、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H29 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30 1月	2月	前月比 増減
景況	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	-26.5	-26.5	-32.7	-20.4	-22.4	-22.4	-22.4	-22.4	-18.4	4.0
売上高	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	-22.4	-12.2	-30.6	-14.3	-32.7	0.0	0.0	-22.4	-18.4	4.0
収益状況	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	-22.4	-8.2	-14.3	-10.2	-18.4	-12.2	-12.2	-10.2	-18.4	-8.2
販売価格	6.1	-4.1	12.2	8.2	-2.0	-6.1	4.1	0.0	10.2	16.3	12.2	20.4	8.2	-12.2
取引条件	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	-6.1	-4.1	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-2.1
資金繰り	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-10.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.2
設備操業度	-5.6	0.0	-5.3	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-2.1
雇用人員	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-4.1	-12.2	-12.2	-18.4	-12.2	-14.3	-14.3	-18.4	-4.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと

前年同月比DIの推移



## 【景況関連の報告】

### 【製造業】

#### <食 料 品>

1. 味 噌・味噌の生産量は、前年同月比101.9%、出荷量は98.1%となった。因みに全国の味噌生産量は、平成29年12月時点で前年同月比111.6%、出荷量は101.3%と増加。しかしながら、原料の国産加工用米は減産となったうえ、価格は上昇。収益面はコスト高で厳しい状況である。

#### <繊維・同製品>

2. 縫 製・各社共、仕事の受注は順調に伸びているが、加工代金が合わないのが現状である。又、人手不足が深刻である為、受注をキャンセルしている。

#### <木材・木製品>

3. 製 材・売上高増加。収益状況不変。年度末を控えた公共事業を中心とした需要がある。民間需要については、米材が高値であるが杉材へのシフトは見られない。積雪や低温の影響で建築現場の計画が遅れ、流通の停滞も見られた。
4. 木 材・原木入荷量は徐々に増えているが、対前年比12%少なく価格が強含みに展開している。製品の需要が厳しい中、各製材所では経営が圧迫されている。
5. 木 材・売上高減少。収益状況悪化。まったく現状は変わらず、昨年と比べても不景気極まる状態になっている。

#### <印 刷>

6. 印 刷・2月も全体的に売上高や需要の減少傾向が続いている。ますます原材料費の値上げや用紙の値上げが価格に転嫁しにくい状況。年度末需要に伴う売上高の増加と需要の回復を期待するところだ。
7. 印 刷・2月に入り、受注量は前年並みになってきたようだが、販売価格は若干低下傾向にある。やはり徳島県内における情報伝達系印刷物の受注は減少し続けており、競争は厳しいようだ。3月は印刷業界の繁忙期であるが、例年よりもスタートが遅いように感じる。最近になり、また製紙業界の再編が進んでおり、印刷用紙の価格動向も気になるところである。中央会・行政庁への要望事項として、中小企業庁が昨年7月官公庁向けに、官公需法に基づく「平成29年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」を発表した。その中で、「中小印刷会社の知的財産権の保護に十分留意した契約内容とするように努める」という事が明記された。これは印刷物納品時の知的財産権放棄項目を削除するように求めている。今後自治体においても、その基本方針を守るようにして頂きたい。

## <窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・2月の出荷量は、昨年同月に比べて大きく減少。特需工事が終了し、さらに寒波による大雪に見舞われたことも影響した。
9. 生 コ ン・2月の出荷数量は、対前年同月比7%の減少となった。要因としては、前年同時期と比較して新規新設工事が少なくなった事が影響している。この時期は、昨年9月に生コン価格の引き上げの効果が表れる時期である。設計単価にも反映される見込みで中小企業の利益増に繋がる見込みであるが、出荷量が伸びない中で平成30年4月頃からセメント価格、骨材価格の引き上げが予想されており、中小企業の収益状況は厳しくなると思われる。

## <鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・全体として業況の大きな変化までは至っていない。一部受注、引き合いの増加も見受けられるが、全般的には依然として横這い状況にある。今後、景気回復基調の持続などによる業況の好転が期待される。
11. ス テ ン レ ス・売上高不変。収益状況不変。国内では、大手企業は継続的に設備投資が行われている。中小企業でも一部で動きも出始めているが、全体としてはまだまだ様子見の状況が続いている。海外においても大きな変化は無い。

## <一般機器>

12. 機 械 金 属・全体として売上高や引き合い等良好な水準を維持しており、大きな変化は見られない。一部では、顧客の設備投資増加等に伴う業況の好転が見られるものの、将来に対する先行き不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また引き続き従業員の確保難や原材料価格の上昇等が、直面する経営上の課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

13. 食 糧 卸・売上高増加。収益状況悪化。「物は売れず、販売価格下がらず。」供給側の理由で価格が上昇している。

### <小売業>

14. 機 械 器 具・繁忙期突入間近であり、業況は好転してきている。

15. ショッピングセンター・売上高は全店計96.7%（既存店97.7%）と前年を割ったが、1月よりは若干良くなっている。昨年7月に「平成29年度中小企業活路開拓・実現化事業の補助事業」の採択を受け、8月より事業を開始。共同店舗が抱える課題として「売上減少」「客離れ」「施設の老朽化」「空き店舗」「収益状況の悪化」等があるが、その原因として「お客様の高齢化による消費量の減少」「店主の高齢化」「競合店の出店」「ライフスタイルの変化」が考えられる。4月に当組合を含めた3組合で、活路開拓・実現化事業を通じて「ムダを省いた効率・効果的な販促策の構築」をテーマに事業を実施することを決定する。
16. プロパンガス・売上高減少。収益状況悪化。顧客に、ガス器具の性能や安全性を知って頂く為に、メーカー主催のイベントのチラシを配布。これを機に売上高増加に繋げていきたい。
17. 電気機器・売上高不変。収益状況不変。白物家電は買換え需要があり、底堅く推移しているが、映像関連機器の動きは依然として弱い。その他設備機器、工事関連は変化なし。
18. 畳小売業・寒波の影響が大きく、2月の下旬頃まで低調であった。20日過ぎより年度末に向けて、公共工事の納品が出始めているものの、一般家庭の仕事は非常に少ない。

#### <商店街>

19. 徳島市・気温が低く、人の動き全く見られない厳しい月であった。活気がなかった月であった為、早く春の訪れを期待する声が聞かれる。
20. 阿南市・売上高不変。収益状況不変。商店街の中心に位置する公園で軽トラ市が開催され、さまざまな店舗が出店して賑わった。一方で、新しい店舗が開店したが、その周辺では閉店した店舗が解体されて空き地が増えることになった。

#### <サービス業>

21. 土木建築業・売上高不変。収益状況不変。改築工事では、新直轄工事（徳島～小松島）が多く、多忙である為担当技術者を来年度増員予定。維持修繕、橋、トンネル補修工事は発注工事等もほぼ終了し、業務量は落ち着いている。交差点改良工事、電線共同溝、視距改良工事においては、工事量は昨年と変わらず少ないが、来年度の事業を前倒しで作業を行っている為、昨年度より多忙である。
22. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-0.6%の1,751台、中古車は0.0%の470台、合計では-0.5%の2,221台と微減。一方、軽自動車の新車登録台数は対前年同月比+0.2%の1,380台、中古車+4.3%の435台、合計は+1.2%の1,815台と微増。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比+0.2%の4,036台であった。点検整備等のサービスに関する収益状況は、普通車においては15%減少しており、不調が続いている。毎年3月は年間で最も収益が上がる時期であるので、来月に期待したいところ。
23. 旅行業・売上高減少。収益状況不変。2月は積雪やインフルエンザの流行等で、旅行者数が大幅に減少したようだ。

## <建設業>

- 24. 建設業・相変わらず公共工事の発注が遅れており、県下全域で受注量が減少している。2月末現在の徳島県の公共工事発注は対前年比15%減、市町村の発注工事では対前年比10%~15%減と厳しい状況である。
- 25. 解体工事業・売上高増加。収益状況好転。民間の戸建住宅等については、前年並みに推移している。地区別では、都市部では前年並みに推移しているが、それ以外の地区では斑模様である。
- 26. 鉄骨・鉄筋工事業・対前月比変わりはない。
- 27. 板金工事業・売上高増加。収益状況不変。仕事の受注は順調であるが、人手不足で困っている。
- 28. 電気工事業・新設住宅口数は315件であり、対前年比126.5%と大幅に増加した。

## <運輸業>

- 29. 貨物運送業・一般貨物輸送は、2月は営業日数が少ないのと寒波の影響もあり、昨年より低調に推移している。特に関東方面は低調。また、軽油価格は中旬以降約2円安となり、対前月比では約1円弱の低下となった。
- 30. 貨物運送業・業況に大きな変化は無し。慢性的な人手不足が続いており、運転手の確保に悩まされている。